

2026年度 愛知学泉大学シラバス

シラバス番号	科目名	担当者名	実務経験のある教員による授業科目	基礎・専門別	単位数	選択・必修別	開講年次・時期
110031007	日本国憲法（2025年度生～）	漆畑 貴久			2	選択	1前期

科目の概要

本講義は、日本国憲法の人権を中心に、憲法に関する基礎知識並びに憲法の基本的考え方を修得することを目指す。そのために、憲法が人権を保護しようとしている仕組み（権利章典）について把握し、この人権を支えるための具体的な方策としての我が国の仕組み（統治機構）について学ぶ。このことを通して、憲法並びに法学の基礎を理解して、身に付けることを目的とする。

本講義における学修を通して、本学家政学部ディプロマ・ポリシー②、③に該当する人材の育成につながることを期待できる。そのために、受講生が日本国憲法の基礎的な知識を修得し、国の仕組みと人権のあり方への深い洞察を行うことができるようになることを目指す。

授業予定は「授業計画」に示した通りであるが、受講生の理解の程度やテーマの重要性との関係から、変更される場合がある。

学修内容	到達目標
① 人権及び統治等の日本国憲法の基礎について理解する。 ② 日本国憲法や身の回りの法に関して、事例から課題とその解決の方法を知り、自分なりの意見を示す。 ③ 法学的な物事の捉え方・考え方の基本を身に付ける。	① 日本国憲法の基礎として、人権及び統治の基本的事項について説明できる。 ② 社会に生じる様々な事象について、日本国憲法の知識と関連させて課題発見・解決に向けた自身の考えを示すことができる。 ③ 法学的な基本用語を適切に用いることができる。

学生に発揮させる社会人基礎力の能力要素	学生に求める社会人基礎力の能力要素の具体的行動事例	
前に踏み出す力	主体性	率先して、日頃からルール（法）への理解を深めるよう、身の回りの情報を意識することができる。
	働きかけ力	
	実行力	身近な法（ルール）について、自身の日常生活で実践できる。
考え抜く力	課題発見力	身の回りの様々な場面にひそむ具体的な問題・課題を発見することができる。
	計画力	
	創造力	課題・問題のよりよい解決法が他にある場合、それに気づくことができる。
チームで働く力	発信力	与えられた課題やテーマにつき、自身の考え方を組み立てて示すことができる。
	傾聴力	授業内容や他の学生とのやり取りに対し真摯に耳を傾け、その場や授業後の協働につなげることができる。
	柔軟性	
	状況把握力	
	規律性	授業中や授業前後に、他者と協調し学生生活を自律的にいとなむことができる。
	ストレスコントロール力	

テキスト及び参考文献

・テキスト（必ず入手）：三枝有=鈴木晃=漆畑貴久著『ローディバイス法学入門（第3版）』法律文化社（2025年）2500円（税別）
 ・参考文献：適宜紹介する。
 なお、事前にレジュメを配布する。

他科目との関連、資格との関連

「日本国憲法」は共通科目に配置されている。
 資格との関連：教職

学修上の助言	受講生とのルール
新聞等が報じるニュースに積極的に目を向け、人権や国家のあり方等について意識していくことが望ましい。	・授業並びに他の受講生の学修を妨げる言動をしない（受講態度が劣悪と判断した受講生については、退席・出席停止等の措置をとる） ・授業内での担当による発問に対して解答してくれた受講生については、能動的学修態度として最終評価に加点する。 ・授業内容に関する質問は、授業前後の担当が対応可能な時間帯に適宜受け付けるが、Google classroom等でも受け付ける（ICTの活用）。なお、質問内容とその解答は、適宜、授業内でフィードバックする。

【評価方法】

評価対象	評価方法	評価の割合	到達目標	各評価方法、評価にあたって重視する観点、評価についてのコメント		
学修成果	学期末試験 筆記（レポート含む）・実技・口頭試験	0	①			
			②			
			③			
	平常評価	小テスト	50	①	✓	・授業終了前にテーマを提示するので、受講生はリアクションペーパーを作成し、次回授業の際に提出する。 ①授業で学修した内容について適切に理解・把握できている。 ②学修内容に基づいて、私見の提示を含む記述がなされている。 ③用語を適切に使用している。
				②	✓	
				③	✓	以上①～③の観点について、正確に理解・説明できているものをA評価、ほぼ理解・説明できているものをB評価、ある程度理解できているとみなされるものをC評価とする。
						pisa型学力評価 ・獲得：日本国憲法に関する正確な知識を獲得している（40%） ・活用：社会に生起する事象を憲法の知識・観点から考察している（30%） ・解決：根拠のある説得力を持った私見を提示している（30%）
		レポート	40	①	✓	・憲法に関する学修に基づいて受講生が自らテーマを設定し、教科書、配布資料、あるいはその他の資料を検討してレポートを作成して提出する。レポートの評価に際して特に重視する観点は以下の通り。 ①憲法に関する基本的知識について正確に記述されている。 ②憲法に関する知識に基づいて、問題設定、学修、及び私見の明示がなされている。 ③学修した用語を適切に使用している。
				②	✓	
③				✓	以上①～③の観点について、正確に理解・説明できているものをA評価、ほぼ理解・説明できているものをB評価、ある程度理解できているとみなされるものをC評価とする。	
					pisa型学力評価 ・獲得：日本国憲法に関する正確な知識を獲得している（40%） ・活用：社会に生起する事象を憲法の知識・観点から考察している（30%） ・解決：根拠のある説得力を持った私見を提示している（30%）	
成果発表（プレゼンテーション・作品制作等）		0	①			
			②			
	③					
学修行動	社会人基礎力（学修態度）	10	①	✓	授業の受講態度、上記レポート及びリアクションペーパーの作成の際の取組みの姿勢において、以下の点を考慮する。	
			②	✓		
			③	✓	①社会に生じる諸問題について憲法の観点から関心を向け、憲法の知識を用いて対応しようとする意思に基づいて行動できる。（主体性、実行力、規律性） ②社会に生じる諸問題を憲法の観点から考察できる。（課題発見力、創造力） ③正確な言葉遣いを通して、自身の考えを発信するとともに、他者の意見に真摯に聞くことができる。（発信力、傾聴力）	
総合評価割合		100				

【到達目標の基準】

到達レベルS(秀)及びA(優)の基準	到達レベルB(良)及びC(可)の基準
<p>授業で学修した内容につき、レポート、リアクションペーパー、及び社会人基礎力（学修態度）を総合的に判断して、90%相当の理解を確認できた場合S（秀）と、そして80%相当の理解を確認できた場合をA（優）と評価する。90%相当とは、(1)憲法で学修した基礎的知識について適切に修得していると認められる説明ができていないこと、(2)その知識に基づいて社会に生じる諸問題について憲法の観点から問題点を指摘し、解決のための方策のあり方について考察し、そしてその問題に対して自分なりの意見を正確な言葉遣いを用いて説得力をもって表明できていると評価できる場合をいう。A（優）は、上記（1）または（2）のいずれかがまだ十分とはいえないが、憲法に関する知識を用いて問題点を指摘し、解決のための方策について考察し、そして自身の意見を正確な言葉遣いを用いて表明できていると評価できる場合をいう。</p>	<p>授業で学修した内容につき、レポート、リアクションペーパー、及び社会人基礎力（学修態度）を総合的に判断して、(1) 憲法に関する基本的な内容について説明することができ、(2) 社会に生じる諸問題について、その知識に基づいて説明して自身の意見を的確に明示することができる場合、B（良）に達したものと判定する。上記(1)と(2)につき、レポート、リアクションペーパー、及び社会人基礎力（学修態度）等を全体的に考慮し、平常の学修内容の取組みをしていたものと確認できる場合、C（可）と判定する。</p>

週	学修内容	授業の実施方法	到達レベルC(可)の基準	予習・復習	時間(分)	能力名
1	・オリエンテーション(授業方法、評価方法等の説明) ・法と社会に関する基本的な知識について	講義 適宜、教員が受講生に発問して解答を求める対話方式の授業を行う。 憲法の条文を配布する。	・科目の概要、今後の授業の進め方、学修のポイント等を把握している。 ・社会において法律が機能する場面について、交通事故の場合を例として、概要を把握している。	(予習) シラバスの内容を確認する。 (復習) 教科書、レジュメ、及び条文を再読して学修した内容について復習し、リアクションペーパーを作成する。	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
2	・憲法の基本構造を知る ・憲法の成り立ちとその考え方について ・憲法の基本原理 ※教科書34-36頁、36-40頁	講義 適宜、教員が受講生に発問して解答を求める対話方式の授業を行う。 リアクションペーパー等から必要に応じてフィードバックを行う。	憲法の基本構造及び憲法の基本原理について説明できる。	(予習) 教科書34-36頁並びに36-40頁、及び事前に配布したレジュメを通読して自分なりの疑問点を持つておく。 (復習) 自分なりの疑問点が解消できたか改めて確認する。教科書34-36頁並びに36-40頁、レジュメ、及び条文を再読して学修内容について復習し、リアクションペーパーを作成する。	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
3	・平和主義 ・象徴天皇制 ※教科書40-42頁、42-45頁	講義 適宜、教員が受講生に発問して解答を求める対話方式の授業を行う。 リアクションペーパーから必要に応じてフィードバックを行う。	平和主義に関する憲法の条文について説明できる。象徴天皇制の下での天皇の国政上の立場について説明できる。	(予習) 教科書40-42頁並びに42-45頁、及び事前に配布したレジュメを通読して自分なりの疑問点を持つておく。 (復習) 自分なりの疑問点が解消できたか改めて確認する。教科書40-42頁並びに42-45頁、レジュメ、及び条文を再読して学修内容について復習し、リアクションペーパーを作成する。	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
4	人権総論 ・人権とは何か ・人権の享有主体 ・人権の限界(公共の福祉) ※教科書46-49頁、49-52頁	講義 適宜、教員が受講生に発問して解答を求める対話方式の授業を行う。 リアクションペーパーから必要に応じてフィードバックを行う。	「人権」、及び「公共の福祉」という言葉の意味について、授業での学修をもとに説明できる。	(予習) 教科書46-49頁並びに49-52頁、及び事前に配布したレジュメを通読して自分なりの疑問点を持つておく。 (復習) 自分なりの疑問点が解消できたか改めて確認する。教科書46-49頁並びに49-52頁、レジュメ、及び条文を再読して学修内容について復習し、リアクションペーパーを作成する。	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
5	包括的人権 ・包括的人権とは ・平等権と尊属殺違憲判決 ※教科書53-55頁	講義 適宜、教員が受講生に発問して解答を求める対話方式の授業を行う。 リアクションペーパーから必要に応じてフィードバックを行う。	「石に泳ぐ魚事件」、並びに「尊属殺違憲判決事件」をもとに、憲法13条・14条の重要性について、自分なりの意見・考えを明示できる。	(予習) 教科書53-55頁、並びに事前に配布したレジュメを通読して自分なりの疑問点を持つておく。 (復習) 自分なりの疑問点が解消できたか改めて確認する。教科書53-55頁、レジュメ、及び条文を再読して学修内容について復習し、リアクションペーパーを作成する。	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
6	自由権(精神的自由) ・精神的自由とは ・思想・良心の自由 ・謝罪広告の強制や君が代拒否教員に対する懲戒が可能な理由 ※教科書55-59頁	講義 適宜、教員が受講生に発問して解答を求める対話方式の授業を行う。 リアクションペーパーから必要に応じてフィードバックを行う。	配布資料に提示された「君が代拒否教員に対して懲戒処分がなされた事例」の概説を通読して、自分なりの考え・意見を提示できる。	(予習) 教科書55-59頁、並びに事前に配布したレジュメを通読して自分なりの疑問点を持つておく。 (復習) 自分なりの疑問点が解消できたか改めて確認する。教科書55-59頁、レジュメ、及び条文を再読して学修内容について復習し、リアクションペーパーを作成する。	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
7	自由権(精神的自由) ・信教の自由 ・政教分離の意味 ※教科書59-62頁	講義 適宜、教員が受講生に発問して解答を求める対話方式の授業を行う。 リアクションペーパーから必要に応じてフィードバックを行う。	「信教の自由」、及び「政教分離」という言葉の意味を説明できる。	(予習) 教科書59-62頁、並びに事前に配布したレジュメを通読して自分なりの疑問点を持つておく。 (復習) 自分なりの疑問点が解消できたか改めて確認する。教科書59-62頁、レジュメ、及び条文を再読して学修内容について復習し、リアクションペーパーを作成する。	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
8	自由権(精神的自由) ・表現の自由が意味すること ・学問の自由と大学の自治 ※教科書62-68頁	講義 適宜、教員が受講生に発問して解答を求める対話方式の授業を行う。 リアクションペーパーから必要に応じてフィードバックを行う。	「表現の自由」の我々にとっての重要性を2つの側面から説明できる。「学問の自由」が社会で果たす働き・機能を説明できる。	(予習) 教科書62-68頁並びに事前に配布したレジュメを通読して自分なりの疑問点を持つておく。 (復習) 自分なりの疑問点が解消できたか改めて確認する。教科書62-68頁、レジュメ、及び条文を再読して学修内容について復習し、リアクションペーパーを作成する。	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性

能力名：主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力

週	学修内容	授業の実施方法	到達レベルC(可)の基準	予習・復習	時間(分)	能力名
9	自由権（経済的自由） ・財産権 ・職業選択の自由 ※教科書68-71頁	講義 適宜、教員が受講生に発問して解答を求める対話方式の授業を行う。 リアクションペーパーから必要に応じてフィードバックを行う。	職業選択の自由の制限に対する違憲性判断の基準について説明できる。	（予習）教科書68-71頁並びに事前に配布したレジュメを通読して自分なりの疑問点を持っておく。 （復習）自分なりの疑問点が解消できたか改めて確認する。教科書68-71頁、レジュメ、及び条文を再読して学修内容について復習し、リアクションペーパーを作成する。	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
10	社会権 ・生存権 ・教育に関する権利 ・勤労権・労働基本権 ※教科書71-80頁	講義 適宜、教員が受講生に発問して解答を求める対話方式の授業を行う。 リアクションペーパーから必要に応じてフィードバックを行う。	生存権、教育に関する権利、勤労権、及び労働基本権の内容等について説明できる。	（予習）教科書71-80頁、並びに事前に配布したレジュメを通読して自分なりの疑問点を持っておく。 （復習）自分なりの疑問点が解消できたか改めて確認する。教科書71-80頁、レジュメ、及び条文を再読して学修内容について復習し、リアクションペーパーを作成する。	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
11	統治機構 ・権力分立 ・国会（国会の地位、組織、並びに活動） ※教科書81-87頁	講義 適宜、教員が受講生に発問して解答を求める対話方式の授業を行う。 リアクションペーパーから必要に応じてフィードバックを行う。	日本国憲法が採用する「権力分立」の態様について説明できる。国会を「国権の最高機関」と位置付けている意味を説明できる。	（予習）教科書81-87頁、並びに事前に配布したレジュメを通読して自分なりの疑問点を持っておく。 （復習）自分なりの疑問点が解消できたか改めて確認する。教科書81-87頁、レジュメ、及び条文を再読して学修内容について復習し、リアクションペーパーを作成する。	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
12	統治機構 ・内閣 ・議院内閣制 ※教科書87-89頁	講義 適宜、教員が受講生に発問して解答を求める対話方式の授業を行う。 リアクションペーパーから必要に応じてフィードバックを行う。	内閣が統括する「行政」という言葉の意味、並びに「議院内閣制」の意味を説明できる。	（予習）教科書87-89頁、並びに事前に配布したレジュメを通読して自分なりの疑問点を持っておく。 （復習）自分なりの疑問点が解消できたか改めて確認する。教科書87-89頁、レジュメ、及び条文を再読して学修内容について復習し、リアクションペーパーを作成する。	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
13	地方自治 ・地方自治の意味 ・地方自治のあり方 ※教科書90-92頁	講義 適宜、教員が受講生に発問して解答を求める対話方式の授業を行う。 リアクションペーパーから必要に応じてフィードバックを行う。	「地方自治の本旨」に含まれる2つの考え方について指摘し、説明できる。	（予習）教科書90-92頁、並びに事前に配布したレジュメを通読して自分なりの疑問点を持っておく。 （復習）自分なりの疑問点が解消できたか改めて確認する。教科書90-92頁、レジュメ、及び条文を再読して学修内容について復習し、リアクションペーパーを作成する。	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
14	統治機構 ・裁判所 ・司法権の独立 ・法令審査権 ※教科書92-101頁	講義 適宜、教員が受講生に発問して解答を求める対話方式の授業を行う。 リアクションペーパーから必要に応じてフィードバックを行う。	「司法権の独立」、並びに「法令審査権」という言葉の意味を説明できる。	（予習）教科書92-101頁、並びに事前に配布したレジュメを通読して自分なりの疑問点を持っておく。 （復習）自分なりの疑問点が解消できたか改めて確認する。教科書92-101頁、レジュメ、及び条文を再読して学修内容について復習し、リアクションペーパーを作成する。	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
15	憲法改正 ・憲法条文を参照しつつ、憲法改正の手続等について確認・把握する。 授業のまとめ ・授業のまとめを行う	講義 適宜、教員が受講生に発問して解答を求める対話方式の授業を行う。 リアクションペーパーから必要に応じてフィードバックを行う。	憲法改正の方法について、憲法の条文等をもとに説明できる。これまでの全体を振り返り、学修内容を整理できている。	（予習）配布プリント並びに条文をもとに憲法改正の手続について確認しておく。 （復習）学修内容について復習し、リアクションペーパーを作成する。	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性

能力名：主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力